

---

になったらいいな) 起動戦士ガンダムSEED DESTINY ~ もう一つのストライクフリーダム ~

自由の剣

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

にめつたていしな  
劇場版起動戦士ガンダムSEED DESTINY〜もう一つの  
ストライクフリーダム〜

### 【Nコード】

N7212K

### 【作者名】

自由の剣

### 【あらすじ】

ギルバートをたおし2年が過ぎた

そして新たな脅威がせまる

劇場版になって欲しいと思います作者は書きます。

あと、自分が使いたい台詞を意味不明な場所で使うので見つけみてはどうでしょう。

そして、この話はかなり短い話ですので皆さんの想像力で少し補っていただくと楽しく行けると思います。

第1話 開幕の剣(前書き)

種好きなら考えたであろう

フリーダムVSフリーダムを

## 第1話 開幕の剣

（地下研究室）

これがストライクフリーダム・・・

そしてこいつがキラ・ヤマト・・・

欲しい、このMSがこの力が

必ず俺の手に

フフフフフ

—————

キラ『デュランダル議長を討ち2年が過ぎ世界は皆の働きで平和な  
日をむかえられるようになった

だが、僕たちはまだ、あんな物見るとは思っもみなかった。』

ラクス『キラ！キラ！どこにいますのキラ！』

キラ『ラクスどうしたの？』

ラクス『キラ！大変なんですの早く来て下さい』

僕はラクスとともにラクスの議長室に行った。

アスラン『来たかキラ』

キラ『どうしたのアスラン？シン君にカガリにイザークたちまで』

シン『そうですよアスランいきなり呼び付けて』

アスラン『いいからこれを見てくれ』

イザーク『なんだこれは』

アスラン『昔アラスカ基地があつた所が復興したのは知っているだろっ？』

キラ『うん』

アスラン『先日そこが襲撃された』

イザーク『なんだと！』

アスラン『これが運よく手に入ったその時の映像の一部がこれだ』

キラ『っ・・・』

シン『こんな』

イザーク『馬鹿な』

ディアツカ『嘘だろ』

カガリ『有り得ない……』

ラクス『事実……ですわ』

アスラン『そうこいつはキラとおなじフリーダムだ』

シン『でもフリーダムは白いボディに青い翼、だがこいつは  
キラ『黒いボディに赤い翼……』

イザーク『フリーダムと真逆だな  
こいつの目的は？』

アスラン『こいつの目的がなんのかわかってない』

キラ『じゃあなんなんだろう』

シン『フリーダムを真似たいだけなんじゃないんですか？  
一様Z A F T最強ですし』

イザーク『だがあれほどの力をどうやって作るのだ』

シン『たしかにそうですけど』

キラ『取り合えずこいつを何とかしないとイケないよね』

アスラン『ああ』

ラクス『皆さん協力して黒いフリーダムの調査お願いします。』

イザーク『フン、いくぞディアツカ！』

ディアツカ『お、おい』

イザークはでていった。

シン『俺はちよっくら出て来ます。』

アスラン『どこに行くシン。』

シン『ちよっと出てくるだけですよ  
それじゃあ』

シンは走り去った。

-----

↓地下研究室↓

フフフフ

素晴らしい

成功だ

これがフリーダム・・・

これで越えられる

キラ・ヤマトを・・・

第2話 黒い自由VS運命(前書き)

ついに始まる闘い

おはやい登場です

## 第2話 黒い自由VS運命

ーオーブー

シン『何と無く来たが  
まさかね・・・』

その時、サイレンがなった

シン『まさか本当に！』

ー宇宙ー

ラクス『カガリさんオーブに黒いフリーダムが現れました』

カガリ『なんだと』

ラクス『キラ大変ですの』

キラ『分かってる！今オーブにアスランと向かってる』

アスラン『大丈夫だカガリ、こっちの情報だとオーブにはシンがデ  
ステイニーで行ったと報告がある  
シンなら大丈夫だ』

ー1時間後ー

キラ『もう着くよ』

アスラン『ああ、いくぞキラ』

キラ『キラ・ヤマト フリーダム行きます』

アスラン『アスラン・ザラ ジャスティス発進する。』

キラたちはオーブ領海に入った

シン『ぐあー』

アスラン『シンどうしたシン!』

キラ『急ごうアスラン』

数分後黒いフリーダムを確認

キラ『まさか、こんな』

アスラン『シン・・・シーン!!!!』

僕たちの前にはバラバラになった

オーブ軍と武装を失い翼が片方しかないボロボロのデスティニーがあった

シン『くそっ、こんな所で・・・』

キラ『アスランはシン君を、僕はあれを』

アスラン『分かった。すぐ行く頼んだぞキラ』

キラ『うん』

二人は動き出す。

-----

やっときたかストライクフリーダム

キラ・ヤマト

待っていた今日が君の最後の闘いだよ

フフフフ

### 第3話 キラ敗北（前書き）

キラと謎の男の闘いが始まります  
さあどうなるか  
たのしみです。

### 第3話 キラ敗北

キラ『やめるんだ』

謎の男『なにをですか？キラ・ヤマト』

キラ『なぜ僕の名を・・・』

謎の男『もうし遅れました

我が名はキラ、鮫島ユラです。』

キラ『ユラさん何故こんな事を』

ユラ『君を超えるためです。キラ・ヤマト』

キラ『僕を？』

ユラ『もういいでしょう

早めに終わらせませす』

ユラは攻めはじめる。

ユラ『分かりますか、君のフリーダムはこれほどの力を持っているのです。』

ユラ『なのに何故あなたは自分の為に力を使わない』

キラ『無益な殺戮をし君はこんな事になんの意味がある』

ユラ『ただこの腐った世界を我が物にし世界を変える』

キラ『そんな自分勝手な理屈……』

ユラ『仕方ないのさ僕がやらなくては

僕以外に誰がやる？誰ができる』

キラ『世界は君の物じゃない皆が一人一人が作り上げる物だ』

ユラ『そんなんだから腐ったままなんだ

誠実で真面目な人間が何故いつも卑怯な人間に屈する

真面目な人間が損をする

腐った人間が多すぎる

だから

僕が変わる』

キラ『ふざけるな

確かにそうかもしれない

でも皆必死で生きてる

そんな人を殺してる君は

その腐った人間と同じじゃないか』

ユラ『黙れ、黙れ黙れ黙れ

貴様に何がわかる、僕の苦しみの何が分かるって言うんだよ。

僕の家族はそんな卑怯な人間達に罪をなすりつけられ死んだんだ  
だから、そんな間違った世界を正そうとして何が悪い』

キラ『君は間違っている

どんな理由があっても』

アスラン『大丈夫がキラ』

キラ『アスラン』

その時一瞬のすぎができた

ユラ『油断が死を招くんだキラ・ヤマトおー』

ユラはフルバーストを放った

キラ『っ・・・』

武装に被弾した。

ユラ『あまい

ハアアア』

ぐさっ

キラ『なっ』

アスラン『キラ・・・キラアア』

ストライクフリーダムは大爆発を起こし跡形もなく消えた。

ユラ『フフフフフ

勝ったキラ・ヤマトに

勝ったんだ

ハハハハハ』

そして

ユラは飛び去った

—————

アスラン『キラ・・・』

シン『そんなキラさんが・・・』

カガリ『大丈夫だキラなら必ず生きてるって絶対』

ラクス『そう・・・ですわね

信じましょうキラを』

アスラン『許さん、キラのカタキは俺が』

ラクス『熱くなっではいけません』

ルナ『そうですよ。相手の』アスラン『うるさい、俺は冷静だ』  
バチンッ

アスラン『っ・・・』

カガリ『いい加減にしろアスラン

お前の気持ちはよくわかる

でも、ここで焦って一人で行っても

ただやられるだけだぞ

そんなことじゃ、勝てるものも勝てないぞ

カガリは涙を流しアスランになげかけた

アスラン『カガリ・・・すまない

シン「この中でフリーダムと闘ったのはお前だけだ  
何か掴んだ事はないか？」

シン「すみません、何も・・・」

アスラン「そうか、いやありがとう。

無理させてたな」

シン「いや、別に。」

その時ルナが手を上げた。

ルナ「あの〜思うんですけど、シンでも歯がたたないなら  
それ以上の機体を作るしかないんじゃないですか？」

アスラン「簡単に言うな、フリーダムやジャスティス、デステイニ  
ー以上の機体を作るのは簡単じゃないんだ」

シン「でも、そうしないと勝てませんよ」

アスラン「だが」

カガリ「良いじゃないかアスラン！やるだけやってみればさあ、な  
あラクス。」

ラクス「そうですね。やってみましょう  
ですが、しばらくはキラがない以上アスランにたよるしかありま  
せん

「お願いできますか？」

アスラン『ああ大丈夫だ』

シン『無茶ですよ一人でなんて』

アスラン『シン大丈夫だ君は早く怪我を治す事に専念してくれ』

シン『はい、分かりましたよ。』

ラクス『では皆さん、引き続き黒いフリーダムの捜索  
そしてキラも生きている事を信じ情報を集めましょう』

クルーの皆『はい』

ラクス『皆さん頑張って下さい』

—————

キラも死んだ

シンには勝った

最後はラクス……

待っているよ

フフフフ

### 第3話 キラ敗北（後書き）

キラ敗北

でも蘇る？

シン頑張る？

アスランが活躍？

## 第4話 剣の絆(前書き)

最後の戦いが始まる。

そして、キラは……。

## 第4話 剣の絆

黒いフリーダムの搜索を開始してから、約1週間がたった。

今だ黒いフリーダムの居場所を特定するような情報は何も無かった。

そんな時だ、キラ・ヤマトを発見したとの情報が入った。

ラクス『キラが、キラが見つかったのですか。』

オーブの・・・はい、分かりました。』

オーブの病院にいると知りラクスは出向く事にした。

アスラン『ラクス、キラが見つかったとは本当か。』

アスランは聞いた。

ラクス『オーブの病院にいると聞きました。』

一週間眠ったままだそうですけど』

ラクスは心配でたまらない目をしている。

アスラン『だがラクス、君の立場を考えてくれ、キラが戦えない状態なんだぞ、君が狙われる可能性だってあるんだ勝手に行かれては困る。』

ラクス『ですが。』

アスラン『最後まで話を聞いて下さい。

俺がラクスのボディガードとしてジャスティスでつく。』

ラクス『アスラン。』

アスラン『さあ、急ごうラクス。』

ラクスとアスランは病院に向かった。

ー次の日ー

ラクス達はキラのいる病院に来ていた。

まだキラは目を覚ましていない。

ラクス『キラ……。』

アスラン『キラ早く目を覚ましてくれ、お願いだキラ。』

だが目を覚まさない。

シン『アスラン！』

シンが病院にやって来た。

シン『キラさん……。』

シンは暗い雰囲気になんとも耐え兼ねたのかラクスに話を振った。

シン『あの議長。』

ラクス『なんですか。』

シン『新しい機体の開発の方はどうなってますか。』

ラクス『順調ですわ。』

元の機体をベースに武装の強化、機体の軽量化を進めていますわ。』

シン『そうですか、ありがとうございます。』

で、いつ頃完成なんですか？』

ラクス『各自の微調整は必要ですが機体の完成は一週間後から二週間くらいと思っていますわ。』

アスラン『新機体はフリーダム、ジャスティス、デスティニーを改良し進化させた物らしいぞ。』

シン『へへっ、たのしみです』

そしてラクスは仕事の為に宇宙に戻って行った。

ラクス『キラ・・・』

だが、ラクスはキラを心配する気持ちを持ち続けて帰ったのだ。

-----

ユラ『データ入力まで、あと5日か。』

ユラが世界を手に入れる時は近い。

だが、彼は知らない。

キラ・ヤマトが生きている事を。

—————

ラクスが帰ってから4日が過ぎた。

だが、キラはまだ目を覚ましていない。

アスラン『キラ・・・』

ー次の日ー

ユラ『データのインストール完了だ。

これで完成したんだ、僕のストライクフリーダムが、行くよラク  
ス君の血の花を咲かせに・・・。』

ユラはストライクフリーダムで宇宙に出現した。

『コンディションレッド発令×2

パイロットは・・・』

シン『あーもう新機体もまだ、完成してないのに。』

アスラン『ほぼ完成はしているんだ。

今は一秒でも時間を稼ぐんだ。』

シン『そういえば、キラさんは！』

アスラン『まだだ……。』

シン『くそっこんな。』

弱るシンにアスランが一喝。

アスラン『弱音を吐くなシン。』

シン『っ……。』

アスラン『今俺達が出る事は沢山あるんだぞ、それをする前から弱気になってどうする。』

『

シン『分かってますよーたくっ。』

シンは喧嘩腰だ。

そして、アスラン、シン、MS軍が出撃する。

アスラン『アスラン・ザラ ジャステイス発進する。』

シン『シン・アスカ デステイニー行きます。』

アスランとシン、MS軍はユラに向かう。

ユラ『ジャステイス、デステイニーか……。』

そして、最後の戦いが始まった。

**第5話 正義と自由と運命と（前書き）**

ついに進化したアスラン達だが  
その力でユラを・・・

## 第5話 正義と自由と運命と

ユラ『ジャステイス1、デステイニー1、他のMSがザクにグフが合計20か・・・。』

まあいいさ、いくぜ!』

ユラは翼を広げ敵軍に突っ込む。

アスラン『シン来るぞ。』

シン『分かってますよ。』

アスラン『ザクとグフは後方から援護を私とシンが行きます。』

兵士達『はい。』

アスランとシンが向かう。

ユラ『やっぱりジャステイスとデステイニーが来るか。ザクとグフは援護かな?なら邪魔なのを消させてもらう。』

ユラはドラグーンをとばす。

一体また一体とザクとグフを落としていく。

シン『やめろー。』

シンが翼を広げアロンダイドを抜き突っ込んだ。

アスラン『シン無闇に突っ込むな。』

アスランが止めようとするが、シンは聞かない。

シン『でいあー。』

ユラ『分かりやすいな、君はすぐに熱くなるな。

それが、悪い癖だー！』

ユラはアロンドイドをシラハドリをしアロンドイドを切り裂く。

シン『ちっ、くそー。』

アスラン『ザクにグフ援護を！』

アスランの命令で残りのザクやグフが特攻する。

ユラ『雑魚が！』

ユラは敵を討つ。

たがザク、グフはかわす。

ユラ『何？』

アスラン『やはりか、シン聞け！』

シン『なんですか！？』

アスラン『シン、奴はキラだ。』

シン『何言ってるんですか？キラさんは今！』

アスラン『キラが乗ってるんじゃない、動きの全てがキラなんだ。』

シン『はあー？』

アスラン『彼はキラのデータを取り込んでいるかも知れないと言っ事だ。』

シン『そんなじゃあ・・・』

敵の動きにユラが不信感を持った。

ユラ『もしかしたら・・・気付いたのか？』

なら・・・

ユラは戦法を変える。

アスラン『？』

シン『アスランどうかしたんですか？』

アスラン『動きが変わった・・・』

シン『なっ。』

アスラン『敵も頭がキレるようだな。』

シン『じゃあどうすりゃいいんですか？キラさんの動きならデータで分かりますが・・・』

その時、ラクスから通信が入った。

ラクス『アスラン、シン戻って下さい。』

シン『なんでですか？』

ラクス『機体が完成しましたわ。ザクとグフを出せるだけ出ししました。10分は稼げると思いますわ。』

アスラン『分かった、すぐ戻る。

シン戻るぞ。』

アスランとシンはラクスの元に戻る。

ユラ『なんだジャステイスとデステイニーが引き上げてグフとザクが大量にこっちに来る？』

・・・

ユラ『まさか！』

ユラは勘が冴える。

ユラ『新型の機体か？』

いやありえない。俺がこの世界に表立ってでたのに時間はそんなに経ってないはずだ、短い時間で新型の機体を作るはずがない・・・

ユラ『念には念を入れさせてもらう。』

ユラはアスラン達を追う。

兵士達『行かせない!』

ユラ『邪魔をするな!』

ユラは大量のザクとグフにいらだつ。

その頃アスランとシンはラクスの所にいた。

アスラン『ラクス・・・新しい機体は?』

ラクス『こちらです。』

ラクスはアスランとシンを案内する。

ラクス『こちらですわ。』

アスランとシンは新しい機体を見る。

シン『これは・・・。』

ラクス『ZGMF-X52S クロスデステイニーとZGMF-X  
29A フレイムインフィニットジャスティスです。

ただし、微調整などはまだです。

なので各自で戦いながらやってもらう事になります。かまいませんか?』

アスラン『ああ大丈夫、最初から覚悟は出来ている。』

シン『俺もです。』

ラクス『では、二人共お願いしますわ。』

シンとアスランは急いで調整した。

完全では無いが発進準備に入る。

シン『完全じゃないんですけど何とかするしかありませんね。』

アスラン『ああそうだな。そろそろ行くぞシン！』

アスランとシンが再び出撃する。

アスラン『アスラン・ザラ フレイムインフィニットジャスティス  
出る。』

アスランが飛ぶ。

シン『シン・アスカ クロスステイニー行きます。』

そして第二幕の始まりである。――

一方戦場では……。

ユラ『あたれー！』

ザク、グフが全て破壊され壊滅していた。

ユラ『やっと、かたずいたか。』

その時、遠くから初めて見るMSが2機。

ユラ『あれは、まさか……。』

アスラン『そこまでだ。』

シン『アンタは俺が討つんだ、今日ここで！』

進化したジャスティスとデステイニーだ。

ユラ『やはり新型に！……だが。』

ユラは驚きながらも冷静だった。

――――

そして、その頃キラの目が覚めていた。

キラ『ここは……何処？』

そんな時、キラの様子を見に来たラクスが部屋に入る。

キラ『ラクス？』

ラクス『キラ！キラ目が覚めたんですの。』

キラ『僕はユラ君に……。』

キラがラクスに色んな事を聞き出した。

キラ『ラクス！あの後、どうなったの？アスランはシン君は！？』

ラクス『大丈夫ですわ、二人共無事です。』

キラ『はあよかった。』

キラは安心した。

ラクス『ですが……。』

キラの顔つきが変わる。

キラ『どうしたのラクス？』

ラクス『キラが眠ってから長い時間が過ぎ今は二人が外で戦ってますわ。』

キラ『じゃあ僕も……。』

ああそうか、フリーダムは……。』

ラクス『キラ、ちょっと来て頂けますか？』

キラ『ラクス？』

キラはとりあえずラクスに付いていく。

そこでキラが見たもの……。それは。

キラ『ラクスこれは？』

ラクス『あなたの新しい力ですわ。』

ZGMF-X30Aギャラクシーストライクフリーダムです。  
あなたを信じ皆が託した力。』

キラ『ありがとうラクス、これでまた僕は皆を守るためにちゃんと戦える。』

ラクス『キラ……。』

キラ『大丈夫行ってくるよ。』  
『。。。』

CPC設定完了

ニュートラルリングージ

・イオン濃度正常

メタ運動パラメータ更新

原子炉臨界。

パワーフロウ正常

全システムオールグリーン

ギャラクシーストライクフリーダム

システム起動。

ラクス『X30A ギャラクシーストライクフリーダム発進どうぞ』

キラ『キラ・ヤマト ギャラクシーストライクフリーダム行きます。』

キラが出撃した。

-----

数分前、戦場で戦う二人は・・・

シン『くそっ何なんだよ、あれは。』

アスラン『ありえん、あれは・・・。』

ユラ『ダークネスストライクフリーダム・・・  
僕の最後の姿、そして力だ!』

ユラは最終兵器ダークネスストライクフリーダムとなり  
クロスステイニーとフレイルムインフィニットジャスティスを圧倒  
した。

ユラ『さあ終わりだよ二人とも。』

ユラがライフルを二人に構える。

ユラ『さようなら、アスラン・・・シン。』

その時、ユラのライフルが爆発した。

ユラ『ちっ、何だ?』

高速でむかって来る見覚えのある青き翼、それは。

ユラ『まさか、そんな、なんで、  
なんで、いるんだよフリーダム!!!!!!!!!!』

アスラン『キラ・・・』

シン『キラさん・・・』

ユラの目の前には倒したはずのフリーダムがいた。

そして、黒き自由と白き自由の決着がつく時が来たのだ。

第5話 正義と自由と運命と（後書き）

フリーダム対フリーダムはどうなるか

あと2話くらいかな？

あと、誤字などは毎度あたると思います。

ごめんなさい。

## 休憩のために機体説明（前書き）

今回は作者の無茶苦茶な機体設定です。

無理とかありえん事はあるかもしれませんが

オリジナル設定なんで気にしたら負けみたいな・・・。

## 休憩のために機体説明

今回は機体解説です。

基本的に元々の機体をベースに進化させました。

ZGMFⅠX52S

クロスステイニー

ビームライフルは変わらず後に装着可能。

腹部にカリドウスを装備

腰にレール砲型のバラエーナ装備

アロングイドの長さが伸び

長距離ビーム砲のビームが太くなり

フォビドゥンのように曲がる。

威力は全て向上している。ZGMFⅠX29A

フレームインフィニットジャスティス

基本的にインフィニットジャスティスで

ファトゥム?のスピード向上し

カリドウスを腹部に装備

足の裏にビーム砲を装備

ファトゥムから超音波を発する事が出来る。

手の平にパルマフィオキーナを装備している。

腰にクロスステイニー同様レール砲型のバラエーナ装備

ZGMFⅠX30A

ギヤラクシーストライクフリーダム

基本はストライクフリーダム。

腰のレール砲がレール砲型のバラエーナに変更。

ビームサーベルの長さが向上し本体のスピードが2倍以上に向上

さらにスーパードラグーンが地上で使用可能になった。

スーパードラグーンは本体に戻さずそのまま敵MSに取り付きエネルギーを奪う能力を得た。

肩の部分にビームサーベルを収納可能になっている。

3機体共通は機体の装甲が少なくなり軽量化した。

全てがマルチロックシステムを採用している。

全員が機体性能を最大限に発揮出来るかわ不明。

以上デス。

## 最終話 平和を作るフリーダム(前書き)

前話の後書きであと2話といいましたが、今回で最終回となります。

## 最終話 平和を作るフリーダム

ユラの前には倒したはずのフリーダムがいて、再び最強の二人の戦いが開幕する。

キラ『君は言ったよね、世界を手に入れるって、君はまだそんな事を考えているのか？』

ユラ『考えているさ、思っているさ、それが俺が生きる理由だ。』

キラ『そんな悲しい理由で・・・』

ユラ『そんな同情した台詞を吐くなー。』

ユラが怒りをあらわにしてキラに切りかかる。

キラ『つ・・・。』

キラは優雅にかわしている。

ユラ『ふざけるな、舐めるな、早く落ちろー。』

キラ『やめろ、もう！』

キラがサーベルを抜き迎撃する。

切り合いになり互いにサーベル同士がぶつかり合う。

ユラ『あたれー！』

ユラがダークネスストライクフリーダム12のドラグーンを飛ばす。

キラは全てのドラグーンをマルチロックしドラグーンフルバーストを討つ。

ドラグーンが次々に破壊されていく。

ユラ『なっ、くそ！こんな事で。』

ユラがフルバーストを討つ。

キラはシールドで防ぐ、キラが反撃する。

キラ『君は世界を手に入れて君が何かをして本当に世界が変わると思っっているのか？』

ユラ『当たり前だ！だから、俺は！』

キラ『君がやるうとしてるのは独裁と同じだ。そんな事じゃ世界は変わらない。何故、それに気付かない。』

ユラ『うるさい、黙れー！』

貴様は今ここで消し去ってやる。もし世界が変わらないと言うなら俺が滅ぼしてやる、この世界を。』

ユラが再びフルバーストを撃つ。

だが、それもキラには届かない。

キラ『させない、僕は僕には守りたい世界があるんだあ。』

ユラ『なら俺が世界をぶっ壊してやらー!』

キラはビームサーベルを繋げ突撃し、ユラもビームサーベルを連結し突撃する。

キラ、ユラ『はあー!!!!!!!!!!』

キラは無理矢理サーベルを押し込みねじ込んだ。

ユラ『僕が・・・死ぬ・・・そんな・・・。』

ダークネスストライクフリーダムは核爆発を起こして、跡形もなく消え去った。

巻き込まれたキラのギャラクシーストライクフリーダムは・・・

アスラン『キラ・・・返事をしろキラ、キラー!』

ジャステイスの通信に反応があった。

『ラン・・・アスラン。』

アスラン『キラ・・・』

キラ『アスラン!』

君は僕に似ているが流れる。

そして、戦いは終わってポロボロになった3人は皆の元に帰る。

――――

ラクス『キラ！』

キラ『ラクス！』

ポロボロのキラとラクスが抱き合い互いに涙を流している。

ルナ『羨ましいわねー。』

その時エレベーターからカガリが現れた。

カガリ『アスラン！』

アスラン『カガリ！？』

カガリ『アスラン、アスランアスラン』

カガリは泣きながらアスランに抱き着いた。

アスラン『カガリ・・・』

アスランはカガリを強く抱きしめていた。

シン『フンっ』

シン見てる自分が恥ずかしくなって何処かに行ってしまった。

――――

場所は変わり

―別室―

アスラン『すまないラクス大事な機体が・・・』

ラクス『いいんですわ。この戦いが終わったら破棄する予定でしたから。』

シン『そうなんですか？』

キラ『強すぎる力は破滅を導く、ユラは世界を変えるには力じゃなくて人が人を感じる心、それを知る事ができなかった。だから・・・』

シン『そう・・・ですね。』

ラクス『人を思う気持ちをユラさんが気付ければ、私達と共に歩めたかも知れませんか。』

キラ『そうかも知れないね。』

僕達は平和な世界を作るために全力を尽くす、二度と彼のような人を作り出さない為にも僕達は・・・。

**最終話 平和を作るフリーダム（後書き）**

ご覧頂きありがとうございました。

この作品は作者が書きたいだけでした。

うん、書くことが満足だ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7212k/>

---

劇場版（になったらいいな）起動戦士ガンダムSEED DESTINY～もう一つのス

2010年10月10日01時40分発行